

報道関係各位

2018年2月5日

## 2018年3月期第3四半期決算(IFRS)業績は予想通りに推移 新中期経営計画のスタートに向けて 事業ポートフォリオの最適化とバランスシートの強化を継続

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：瀬戸欣哉、以下 LIXIL グループ）は本日、2018年3月期第3四半期の決算<sup>\*1</sup>を発表しました。

第3四半期（9カ月累計）の売上収益は、前年同期比2.4%増の1兆2,505億円<sup>\*2</sup>となりました。積極的なマーケティング投資が奏功して国内の LIXIL Water Technology (LWT) と LIXIL Kitchen Technology (LKT) が増収となったほか、流通・小売り事業における売上成長が増収に寄与しました。事業利益<sup>\*3</sup>は、国内のマーケティング投資、売上好調に伴う物流費増加、IT関連費用増加などにより、前年同期比10.5%減の686億円となりました。

非継続事業を含む当期利益<sup>\*4</sup>は、第3四半期（3カ月）においては、前期同期比42億円増の258億円でした。9カ月の累計では、前期に発生した外貨建て借入金円転等による為替差益の剥落や、Permasteelisa S.p.Aの株式譲渡決定に伴う一過性損失の影響を受け、前年同期より71億円減少し386億円となりました。一方、借入金返済による支払利息の減少や、国内での連結納税制度適用選択、米国の税制改正等の影響などの一過性要因がプラスに作用しました。2018年3月期通期業績予想に対して90%を達成しており、予想通りに進捗しています。

※1 国際会計基準（IFRS）に基づく。

※2 売上収益、事業利益ともに継続事業ベース。2017年8月の Permasteelisa の株式譲渡決定を受け、同社および同社子会社の事業を非継続事業に分類した。

※3 IFRSの事業利益は、日本会計基準（JGAAP）の営業利益に相当。

※4 親会社の所有者に帰属する四半期利益

### LIXIL グループ社長兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「LIXIL グループは、LIXIL-Haier の株式譲渡を行うなど事業ポートフォリオの最適化を継続的に進めています。また、先頃、インド市場への投資を行い、水まわり事業をさらに強化しています。この投資は、インド市場における需要獲得のみならず、衛生陶器のグローバルなサプライチェーンの強化にも寄与するものです。通期業績予想の達成に向けて順調に進捗しており、新中期経営計画のスタートを前に、引き続き経営効率の向上やバランスシートの強化に注力していきます」

中期経営計画の目標の達成に向けた主要施策として、2018年4月1日付で組織変更を実施します。メーカーとしての国内市場での競争力を強化するため、LIXIL Japan Company (LJC) を再編し、開発・製造・販売を一体的かつ効率的に各テクノロジー部門で統括する事業体制へと移行します。さらに、非住宅部門を強化するため、LIXIL Building Technology Japan (LBT-J) に開発・製造・販売の機能を統合します。

また、4月1日付で LWT 内に Synergy Creation Office (SCO) を新設し、LIXIL の Chief Integration Officer である Yang Chin Chen が統括します。SCO は、既存のタスクフォースによる技術・開発・生産・サプライチェーンといったものづくり領域におけるシナジー活動を発展・強化し、より恒久的な組織として、人事、IT、財務、知的財産、ブランドマネジメントといったコーポレート領域に範囲を拡大し、地域の枠を超えたシナジーの実現を強力に推進していきます。

## セグメント別決算の概要

**LIXIL Water Technology (LWT)** は、LIXIL、INAX、GROHE、American Standard などのグローバルブランドを展開しており、売上収益は前年同期比 8%増の 5,294 億円、事業利益は同 1%増の 539 億円と増収増益となり、事業利益率は 10%でした。日本国内のマーケティング投資による売上増に加え、欧州・中東・アフリカ地域およびアジア太平洋地域で計画通りに進捗していること、さらに北米地域における生産・供給能力増強などにより、増収を達成しました。事業利益については、マーケティング投資や原材料・物流費の増加があったものの、中高級価格帯製品や高付加価値品へのシフトやシナジー効果によって増益となりました。

**LIXIL Housing Technology (LHT)** は、主に日本国内の新築、リフォーム市場向けに製品・サービスを展開しており、売上収益は、前年同期比 1%減の 4,055 億円、事業利益は同 22%減の 259 億円、事業利益率は 6%でした。売上収益は、新築の売上げが伸びたことにより、事業売却の影響を除く実質ベースでは、前年同期比で増収となりました。事業利益は、アルミ価格の高騰や販管費の先行投入および商品ミックスの変化による影響を受けました。

**LIXIL Building Technology (LBT)** は、建設プロジェクトを手がけており、売上収益は前年同期比 3%減の 790 億円、事業利益は同 22%減の 20 億円、事業利益率は 3%でした。LBT は、収益性の改善に向けて、引き続き選別受注の徹底を図っています。

**LIXIL Kitchen Technology (LKT)** は、システムキッチンおよび関連製品を展開しています。売上収益は、前年同期比 7%増の 913 億円となり、事業利益は前年同期から 57%増の 56 億円と大幅に増加し、事業利益率は 6%でした。日本国内における積極的なマーケティング活動により、主力製品である中高級価格帯のシステムキッチン「リシェル」および「アレスタ」シリーズの売上が増加し、さらに賃貸アパート向けのコンパクトキッチンの売上也好調が続き、増収を達成しました。また、増収に加え、操業度向上による製造コストダウンによって、事業利益も改善しました。

**流通・小売り事業**は、日本でホームセンター事業を展開していますが、売上収益は前年同期 1%増の 1,341 億円、事業利益は一過性費用の発生により、前年同期比 3%減の 73 億円となり、事業利益率は 5%でした。

**住宅・サービス事業等**は、住宅関連ソリューションを幅広く展開しており、売上収益は前年同期比 19%減の 395 億円、事業利益は 39%減の 21 億円、事業利益率は 5%でした。これは、前年度の株式会社日本住宅保証検査機構 (JIO) の非連結化の影響によるものです。

## ■ LIXIL、LIXIL グループについて

### LIXIL について

株式会社 LIXIL は、戸建住宅・マンションからオフィス・商業施設などの非住宅向けに、多岐にわたる建材・設備機器および幅広い住関連サービスを提供するグローバル企業です。LIXIL、American Standard、GROHE、DXV、INAX、Permasteelisa をはじめとする業界をリードする数々のブランドを有し、水まわり製品から内外装建材をはじめとする先進的な製品・サービスの提供を通じて、世界中の人びとのより豊かで快適な住まいと暮らしの実現に貢献しています。現在、世界 150 カ国以上で事業を展開し、70,000 人超の従業員を擁しています。

LIXIL ウェブサイト：<http://www.lixil.co.jp/>

### LIXIL グループについて

株式会社 LIXIL グループ（証券コード：5938）は、中核事業会社である株式会社 LIXIL をはじめ、株式会社 LIXIL ビバ、株式会社 LIXIL 住宅研究所などを傘下に持つ持株会社で、東京証券取引所および名古屋証券取引所に上場しています。多岐にわたる建材・設備機器の製造、販売に加え、ホームセンター事業や住宅フランチャイズチェーンの運営、不動産サービスなど、幅広い住関連サービスを展開しています。2017 年 3 月期の連結売上高は 1 兆 7,864 億円\*です。

LIXIL グループウェブサイト：<http://www.lixil.com/jp/>

※国際会計基準（IFRS）ベース